



APPENDIX

B

## Catalyst 2975 スイッチ デバッグ コマンド

この付録では、Catalyst 2975 スイッチ用に作成または変更された **debug** 特権 EXEC コマンドについて説明します。これらのコマンドは、インターネットワーキングの問題の診断および解決に役立ちます。使用する場合には、必ずシスコのテクニカル サポート担当者の指示に従ってください。



注意

デバッグ出力には、CPU プロセスで高いプライオリティが与えられるので、システムが使用不能になる可能性があります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカル サポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。**debug** コマンドは、ネットワーク トラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用するのが最良です。このような時期を選んでデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理の負担によってシステム利用が影響を受ける可能性が少なくなります。

# debug auto qos

Automatic Quality of Service (auto-QoS; 自動サービス品質) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug auto qos** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug auto qos**

**no debug auto qos**

**シンタックスの説明** このコマンドには、キーワードと引数はありません。

**デフォルト** auto-QoS デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** auto-QoS がイネーブルのときに自動的に生成される Quality of Service (QoS; サービス品質) の設定を表示するには、auto-QoS をイネーブルにする *前に* デバッグをイネーブルにします。デバッグをイネーブルするには、**debug auto qos** 特権 EXEC コマンドを入力します。

**undebg auto qos** コマンドは、**no debug auto qos** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**例** 次の例では、auto-QoS がイネーブルの場合に自動的に生成される QoS 設定を表示する方法を示します。

```
Switch# debug auto qos
AutoQoS debugging is on
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# auto qos voip cisco-phone

21:29:41: mls qos map cos-dscp 0 8 16 26 32 46 48 56
21:29:41: mls qos
21:29:42: no mls qos srr-queue input cos-map
21:29:42: no mls qos srr-queue output cos-map
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 3 0
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 2 1
```

```

21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 1 2
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 2 4 6 7
21:29:43: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 3 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 1 threshold 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 2 threshold 3 3 6 7
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 3 threshold 3 2 4
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 2 1
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 3 0
21:29:44: no mls qos srr-queue input dscp-map
21:29:44: no mls qos srr-queue output dscp-map
21:29:44: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 32
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 1 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 33 34 35 36 37 38 39 48
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 49 50 51 52 53 54 55 56
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 57 58 59 60 61 62 63
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 1 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 48 49 50 51 52 53 54 55
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 56 57 58 59 60 61 62 63
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 32 33 34 35 36 37 38 39
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 1 8
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 1
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 2
21:29:50: mls qos srr-queue input bandwidth 90 10
21:29:50: no mls qos srr-queue input buffers
21:29:50: mls qos queue-set output 1 buffers 10 10 26 54
21:29:50: interface GigabitEthernet2/0/1
21:29:50: mls qos trust device cisco-phone
21:29:50: mls qos trust cos
21:29:50: no queue-set 1
21:29:50: srr-queue bandwidth shape 10 0 0 0
21:29:50: srr-queue bandwidth share 10 10 60 20

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>auto qos voip</b>	QoS ドメイン内で Voice over IP (VoIP) の auto-QoS を設定します。
<b>show auto qos</b>	auto-QoS 機能によって生成された初期設定を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug backup

Flex Link バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug backup** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug backup** {all | errors | events | vlan-load-balancing}

**no debug backup** {all | errors | events | vlan-load-balancing}

## シンタックスの説明

<b>all</b>	バックアップ インターフェイスのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	バックアップ インターフェイスのエラーまたは例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	バックアップ インターフェイスのイベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan-load-balancing</b>	バックアップ インターフェイスの VLAN ロードバランス情報を表示します。

## デフォルト

バックアップ インターフェイス デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(37)SE	<b>vlan-load-balancing</b> キーワードが追加されました。
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug backup** コマンドは、**no debug backup** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug cluster

クラスタ固有のイベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug cluster** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat |
neighbors | platform | snmp | vqpxy}
```

```
no debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat
| neighbors | platform | snmp | vqpxy}
```

## シンタックスの説明

<b>discovery</b>	クラスタ検出デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	クラスタ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>extended</b>	拡張検出デバッグ メッセージを表示します。
<b>hsrp</b>	Hot Standby Router Protocol (HSRP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>http</b>	HTTP デバッグ メッセージを表示します。
<b>ip [packet]</b>	IP またはトランスポート パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>members</b>	クラスタ メンバー デバッグ メッセージを表示します。
<b>nat</b>	Network Address Translation (NAT) デバッグ メッセージを表示します。
<b>neighbors</b>	クラスタ ネイバ デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	プラットフォーム固有のクラスタ デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) デバッグ メッセージを表示します。
<b>vqpxy</b>	VLAN Query Protocol (VQP) プロキシ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドが利用できるのは、クラスタ コマンド スイッチ スタックまたはクラスタ コマンド スイッチに限られます。

**undebug cluster** コマンドは、**no debug cluster** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show cluster</b>	スイッチが属するクラスタのステータスおよびサマリーを表示します。
<b>show cluster candidates</b>	コマンド スイッチに対して入力した場合、候補スイッチのリストを表示します。
<b>show cluster members</b>	コマンド スイッチに対して実行した場合、クラスタ メンバーに関する情報を表示します。

# debug dot1x

IEEE 802.1x 認証機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug dot1x** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug dot1x {all | errors | events | feature | packets | registry | state-machine}**

**no debug dot1x {all | errors | events | feature | packets | registry | state-machine}**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべての IEEE 802.1x 認証デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	IEEE 802.1x エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	IEEE 802.1x イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>機能</b>	IEEE 802.1x 機能のデバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	IEEE 802.1x パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>registry</b>	IEEE 802.1x レジストリ呼び出しのデバッグ メッセージを表示します。
<b>state-machine</b>	ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**redundancy** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dot1x** コマンドは、**no debug dot1x** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show dot1x</b>	スイッチまたは指定されたポートの IEEE 802.1x 統計情報、管理ステータス、および動作ステータスを表示します。

# debug dtp

Dynamic Trunking Protocol (DTP) のアクティビティをデバッグするには、**debug dtp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug dtp** {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states | timers}

**no debug dtp** {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states | timers}

## シンタックスの説明

<b>aggregation</b>	DTP ユーザメッセージ アグリゲーション デバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	DTP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>decision</b>	DTP 決定テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	DTP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>oserrs</b>	DTP オペレーティング システム関連エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	DTP パケット処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>queue</b>	DTP パケット キューイング デバッグ メッセージを表示します。
<b>states</b>	DTP ステート移行デバッグ メッセージを表示します。
<b>timers</b>	DTP タイマー イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dtp** コマンドは、**no debug dtp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show dtp</b>	スイッチまたは指定されたインターフェイスの DTP 情報を表示します。



# debug eap

Extensible Authentication Protocol (EAP) のアクティビティをデバッグするには、**debug eap** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dot1x {all | authenticator | errors | events | md5 | packets | peer | sm}
```

```
no debug dot1x {all | authenticator | errors | events | md5 | packets | peer | sm}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	EAP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>authenticator</b>	オーセンティケータ デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	EAP エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	EAP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>md5</b>	EAP-MD5 デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	EAP パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>peer</b>	EAP ピア デバッグ メッセージを表示します。
<b>sm</b>	EAP ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dot1x** コマンドは、**no debug dot1x** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show eap</b>	スイッチまたは特定のポートの EAP のレジストレーション情報およびセッション情報を表示します。

# debug etherchannel

EtherChannel/Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) シムのデバッグをイネーブルにするには、**debug etherchannel** 特権 EXEC コマンドを使用します。このシムは、PAgP ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug etherchannel** [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

**no debug etherchannel** [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>detail</b>	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>error</b>	(任意) EtherChannel エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) 主な EtherChannel イベント メッセージをデバッグします。
<b>idb</b>	(任意) PAgP インターフェイス記述子ブロック デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**linecard** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

**undebug etherchannel** コマンドは、**no debug etherchannel** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show etherchannel</b>	チャンネルの EtherChannel 情報を表示します。

# debug ilpower

電源コントローラおよび Power over Ethernet (PoE) システムのデバッグをイネーブルにするには、**debug ilpower** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

```
no debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

## シンタックスの説明

<b>cdp</b>	PoE Cisco Discovery Protocol (CDP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>controller</b>	PoE コントローラ デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	PoE イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>ha</b>	PoE ハイ アベイラビリティ メッセージを表示します。
<b>port</b>	PoE ポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>powerman</b>	PoE 電力管理デバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	PoE レジストリ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、PoE 対応スイッチでだけサポートされています。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show controllers power inline</a>	指定した PoE コントローラのレジスタの値を表示します。
<a href="#">show power inline</a>	指定した PoE ポートまたはすべての PoE ポートの電源ステータスを表示します。

# debug interface

インターフェイス関連のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug interface** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel port-channel-number | vlan vlan-id}
```

```
no debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel port-channel-number | vlan vlan-id}
```

## シンタックスの説明

<i>interface-id</i>	タイプ スイッチ番号/モジュール番号/ポート (例: <b>gigabitethernet 1/0/2</b> ) によって識別される指定された物理ポートのデバッグ メッセージを表示します。
<b>null</b> <i>interface-number</i>	ヌル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>interface-number</i> は常に <b>0</b> です。
<b>port-channel</b> <i>port-channel-number</i>	指定された EtherChannel ポートチャネル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>port-channel-number</i> は 1 ~ 6 です。
<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	指定された VLAN (仮想 LAN) のデバッグ メッセージを表示します。指定できる <i>vlan-id</i> の範囲は 1 ~ 4094 です。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

**undebug interface** コマンドは、**no debug interface** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number** LINE 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show etherchannel</b>	チャネルの EtherChannel 情報を表示します。

# debug ip dhcp snooping

DHCP スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip dhcp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ip dhcp snooping {mac-address | agent | event | packet}
```

```
no debug ip dhcp snooping {mac-address | agent | event | packet}
```

## シンタックスの説明

<i>mac-address</i>	指定された MAC (メディア アクセス制御) アドレスを持つ DHCP パケットのデバッグ メッセージを表示します。
<b>agent</b>	DHCP スヌーピング エージェントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	DHCP スヌーピング イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	DHCP スヌーピングのデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip dhcp snooping** コマンドは、**no debug ip dhcp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip igmp filter

Internet Group Management Protocol (IGMP) フィルタ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp filter** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp filter**

**no debug ip igmp filter**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug ip igmp filter** コマンドは、**no debug ip igmp filter** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip igmp max-groups

Internet Group Management Protocol (IGMP) 最大グループ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp max-groups** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp max-groups**

**no debug ip igmp max-groups**

## シンタックスの説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip igmp max-groups** コマンドは、**no debug ip igmp max-groups** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip igmp snooping

Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug igmp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp snooping** [**group** | **management** | **querier** | **router** | **timer**]

**no debug ip igmp snooping** [**group** | **management** | **querier** | **router** | **timer**]

## シンタックスの説明

<b>group</b>	(任意) IGMP スヌーピング グループ アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>management</b>	(任意) IGMP スヌーピング管理アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>querier</b>	(任意) IGMP スヌーピング クエリア デバッグ メッセージを表示します。
<b>router</b>	(任意) IGMP スヌーピング ルータ アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>timer</b>	(任意) IGMP スヌーピング タイマー イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip igmp snooping** コマンドは、**no debug ip igmp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">debug platform ip igmp snooping</a>	プラットフォーム依存型 IGMP スヌーピング アクティビティに関する情報を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug lacp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug lacp** [**all** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

**no debug lacp** [**all** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) LACP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>event</b>	(任意) LACP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>fsm</b>	(任意) LACP 有限状態マシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>misc</b>	(任意) その他の LACP デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) LACP パケット デバッグ メッセージをすべて表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug lacp** コマンドは、**no debug lacp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show lacp</b>	LACP チャネル グループ情報を表示します。

# debug mac-notification

MAC（メディア アクセス制御）通知イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug mac-notification** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug mac-notification**

**no debug mac-notification**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug mac-notification** コマンドは、**no debug mac-notification** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show mac address-table notification</b>	すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスに対する MAC アドレス通知の情報を表示します。

# debug matm

プラットフォーム独立型 MAC（メディア アクセス制御）アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug matm**

**no debug matm**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug matm** コマンドは、**no debug matm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>debug platform matm</b>	プラットフォーム依存型 MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug matm move update

MAC（メディア アクセス制御）アドレス テーブル移行更新メッセージ処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm move update** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**debug matm move update**

**no debug matm move update**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug matm move update** コマンドは、**no debug matm move update** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>mac address-table move update</b> {receive   transmit}	スイッチに MAC アドレス テーブル移行更新機能を設定します。
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show mac address-table move update</b>	スイッチに MAC アドレス テーブル移行更新情報を表示します。

# debug monitor

Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug monitor** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

```
no debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	SPAN デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	SPAN エラー デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>idb-update</b>	SPAN Interface Description Block (IDB; インターフェイス記述子ブロック) 更新トレース デバッグ メッセージを表示します。
<b>info</b>	SPAN 情報トレーシング デバッグ メッセージを表示します。
<b>list</b>	SPAN ポートおよび VLAN (仮想 LAN) リスト トレーシング デバッグ メッセージを表示します。
<b>notifications</b>	SPAN 通知デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	SPAN プラットフォーム トレーシング デバッグ メッセージを表示します。
<b>requests</b>	SPAN 要求デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	SPAN および SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) トレーシング デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug monitor** コマンドは、**no debug monitor** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## ■ debug monitor

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show monitor</b>	スイッチ上の SPAN および Remote SPAN (RSPAN; リモート SPAN) セッションに関する情報をすべて表示します。

# debug mvrdbg

Multicast VLAN Registration (MVR) のデバッグをイネーブルにするには、**debug mvrdbg** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```

```
no debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	MVR アクティビティ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>events</b>	MVR イベント処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>igmpsn</b>	MVR Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>management</b>	MVR 管理アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>ports</b>	MVR ポート デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug mvrdbg** コマンドは、**no debug mvrdbg** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show mvr</b>	現在の MVR 設定を表示します。

# debug nvram

NVRAM（不揮発性 RAM）アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug nvram** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug nvram**

**no debug nvram**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug nvram** コマンドは、**no debug nvram** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug pagp

Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pagp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug pagp** [**all** | **dual-active** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

**no debug pagp** [**all** | **dual-active** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) PAgP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>dual-active</b>	(任意) dual-active 検出メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) PAgP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>fsm</b>	(任意) PAgP 有限状態マシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>misc</b>	(任意) その他の PAgP デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) PAgP パケット デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg pagp** コマンドは **no debug pagp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show pagp</b>	PAgP チャネル グループ情報を表示します。

# debug platform acl

Access Control List (ACL; アクセス制御リスト) マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform acl** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform acl {all | exit | label | main | stack | warn}
```

```
no debug platform acl {all | exit | label | main | stack | warn}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	ACL マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>exit</b>	ACL 終了関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>label</b>	ACL ラベル関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>main</b>	主な、または重要な ACL デバッグ メッセージを表示します。
<b>warn</b>	ACL 警告関連デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**racl**、**stack**、**vacl**、および **vmap** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform acl** コマンドは、**no debug platform acl** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform backup interface

Flex Link プラットフォーム バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform backup interface** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform backup interface**

**no debug platform backup interface**

## シンタックスの説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

プラットフォーム バックアップ インターフェイス デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform backup interface** コマンドは、**no platform debug backup interface** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform cli-redirect main

主要（重要）な CLI（コマンドライン インターフェイス）リダイレクション イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cli-redirect main** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform cli-redirect main**

**no debug platform cli-redirect main**

## シンタックスの説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform cli-redirect main** コマンドは、**no debug platform cli-redirect main** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform configuration

スタック全体のコンフィギュレーション ファイル アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform configuration** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform configuration {all | reception | transmission}**

**no debug platform configuration {all | reception | transmission}**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	スタック全体のすべてのコンフィギュレーション ファイルの送受信イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>reception</b>	他のスタック メンバーからのコンフィギュレーション ファイル受信のデバッグ メッセージを表示します。
<b>transmission</b>	他のスタック メンバーへのコンフィギュレーション ファイル送信のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform configuration** コマンドは、**no debug platform configuration** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform cpu-queues

プラットフォーム CPU 受信キューのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cpu-queues** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q |
  igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q | software-fwd-q
  | stp-q}
```

```
no debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q
  | igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q |
  software-fwd-q | stp-q}
```

## シンタックスの説明

<b>broadcast-q</b>	ブロードキャスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cbt-to-spt-q</b>	Core-Based Tree to Shortest-Path Tree (cbt-to-spt) キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cpuhub-q</b>	CPU ハートビート キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>host-q</b>	ホスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>icmp-q</b>	Internet Control Message Protocol (ICMP) キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>igmp-snooping-q</b>	Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>layer2-protocol-q</b>	レイヤ 2 プロトコル キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>logging-q</b>	ロギング キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>remote-console-q</b>	リモート コンソール キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>software-fwd-q</b>	ソフトウェア転送キューによって受信されたパケットをデバッグします。
<b>stp-q</b>	Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) キューによって受信されたパケットをデバッグします。



(注)

**routing-protocol-Q** および **rpffail-q** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

---

**コマンドの履歴**

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

---

**使用上のガイドライン**

**undebg platform cpu-queues** コマンドは、**no debug platform cpu-queues** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform dot1x

スタック関連 IEEE 802.1x イベントのデバッグをイネーブルにするには、`debug platform dot1x` 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
debug platform dot1x {initialization | interface-configuration | rpc}
```

```
no debug platform dot1x {initialization | interface-configuration | rpc}
```

## シンタックスの説明

<b>initialization</b>	IEEE 802.1x 認証初期化シーケンス デバッグ メッセージを表示します。
<b>interface-configuration</b>	IEEE 802.1x インターフェイス コンフィギュレーション関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	IEEE 802.1x Remote Procedure Call (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

`undebug platform dot1x` コマンドは、`no debug platform dot1x` コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform etherchannel

プラットフォーム依存型 EtherChannel イベントをデバッグするには、**debug platform etherchannel** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

```
no debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

## シンタックスの説明

<b>init</b>	EtherChannel モジュール初期化デバッグ メッセージを表示します。
<b>link-up</b>	EtherChannel リンクアップおよびリンクダウン関連のデバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	EtherChannel Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>warnings</b>	EtherChannel 警告デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform etherchannel** コマンドは、**no debug platform etherchannel** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform forw-tcam

転送 Ternary CAM (TCAM) マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform forw-tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform forw-tcam [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]**

**no debug platform forw-tcam [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]**

## シンタックスの説明

<b>adjustment</b>	(任意) TCAM マネージャ調整デバッグ メッセージを表示します。
<b>allocate</b>	(任意) TCAM マネージャ割り当てデバッグ メッセージを表示します。
<b>audit</b>	(任意) TCAM マネージャ監査メッセージを表示します。
<b>error</b>	(任意) TCAM マネージャ エラー メッセージを表示します。
<b>move</b>	(任意) TCAM マネージャ移行メッセージを表示します。
<b>read</b>	(任意) TCAM マネージャ読み込みメッセージを表示します。
<b>write</b>	(任意) TCAM マネージャ書き込みメッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードが指定されない場合、転送 TCAM マネージャ デバッグ メッセージがすべて表示されます。

**undebug platform forw-tcam** コマンドは、**no debug platform forw-tcam** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform frontend-controller

フロントエンドコントローラ アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform frontend-controller** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform frontend-controller {all | image | led | manager | poe | register | thermal}
```

```
no debug platform frontend-controller {all | image | led | manager | poe | register | thermal}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	フロントエンドコントローラのデバッグメッセージをすべて表示します。
<b>image</b>	Image Manager デバッグメッセージを表示します。
<b>led</b>	LED デバッグメッセージを表示します。
<b>manager</b>	フロントエンドコントローラ マネージャ デバッグメッセージを表示します。
<b>poe</b>	Power over Ethernet (PoE) デバッグメッセージを表示します。
<b>register</b>	Register Access デバッグメッセージを表示します。
<b>thermal</b>	温度のデバッグメッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Power over Ethernet スイッチでだけサポートされています。

**undebug platform frontend-controller** コマンドは、**no debug platform frontend-controller** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show platform frontend-controller</b>	フロントエンドコントローラ マネージャとその従属アプリケーションのカウンタおよびステータス情報を表示します。また、フロントエンドコントローラのハードウェアおよびソフトウェア情報を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip dhcp

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) イベントをデバッグするには、**debug platform ip dhcp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]**

**no debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) DHCP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>error</b>	(任意) DHCP エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) DHCP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) DHCP パケット関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	(任意) DHCP Remote Procedure Call (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform ip dhcp** コマンドは、**no debug platform ip dhcp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip dhcp snooping</b>	DHCP スヌーピング設定を表示します。
<b>show ip dhcp snooping binding</b>	DHCP スヌーピング バインディング情報を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip igmp snooping

プラットフォーム依存型 Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip igmp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

```
debug platform ip igmp snooping pak {ip-address | error | ipopt | leave | query | report | rx | svi | tx}
```

```
debug platform ip igmp snooping rpc [cfg | misc | vlan]
```

```
no debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	IGMP スヌーピング デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>di</b>	IGMP スヌーピング宛先インデックス (di) 調整 Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>error</b>	IGMP スヌーピング エラー メッセージを表示します。
<b>event</b>	IGMP スヌーピング イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>group</b>	IGMP スヌーピング グループ デバッグ メッセージを表示します。
<b>mgmt</b>	IGMP スヌーピング管理デバッグ メッセージを表示します。
<b>pak</b> { <i>ip-address</i>   <b>error</b>   <b>ipopt</b>   <b>leave</b>   <b>query</b>   <b>report</b>   <b>rx</b>   <b>svi</b>   <b>tx</b> }	<p>IGMP スヌーピング パケット イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>ip-address</i> - IGMP グループの IP アドレス</li> <li>• <b>error</b> - IGMP スヌーピング パケット エラー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ipopt</b> - IGMP スヌーピング IP ブリッジング オプション デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>leave</b> - IGMP スヌーピング脱退デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>query</b> - IGMP スヌーピング クエリー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>report</b> - IGMP スヌーピング レポート デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>rx</b> - IGMP スヌーピング受信パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>svi</b> - IGMP スヌーピング Switched Virtual Interface (SVI) パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>tx</b> - IGMP スヌーピング送信パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>retry</b>	IGMP スヌーピング再試行デバッグ メッセージを表示します。

## debug platform ip igmp snooping

<b>rpc [cfg   misc   vlan]</b>	IGMP スヌーピング RPC イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>cfg</b> - (任意) IGMP スヌーピング RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>misc</b> - (任意) IGMP スヌーピングのその他の RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>vlan</b> - (任意) IGMP スヌーピング VLAN (仮想 LAN) アサート RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>warn</b>	IGMP スヌーピング警告メッセージを表示します。



(注)

**rpc l3mm** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring には表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform ip igmp snooping** コマンドは、**no debug platform ip igmp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug ip igmp snooping</b>	プラットフォーム独立型 IGMP スヌーピング アクティビティに関する情報を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform led

Light-Emitting Diode (LED) 動作のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform led** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform led {generic | signal | stack}
```

```
no debug platform led {generic | signal | stack}
```

## シンタックスの説明

<b>generic</b>	LED の一般的動作のデバッグ メッセージを表示します。
<b>signal</b>	LED 信号ビット マップ デバッグ メッセージを表示します。
<b>stack</b>	LED スタック アクション デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**stack** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform led** コマンドは、**no debug platform led** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform matm

プラットフォーム依存型 MAC（メディア アクセス制御）アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform matm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address |
  warnings}
```

```
no debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address
  | warnings}
```

## シンタックスの説明

<b>aging</b>	MAC アドレス エージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	プラットフォーム MAC アドレス管理イベント デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>ec-aging</b>	EtherChannel アドレス エージング関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	MAC アドレス管理エラー メッセージを表示します。
<b>learning</b>	MAC アドレス管理アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	MAC アドレス管理 Remote Procedure Call (RPC) 関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>secure-address</b>	MAC アドレス管理セキュア アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>warning</b>	MAC アドレス管理警告メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform matm** コマンドは、**no debug platform matm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug matm</b>	プラットフォーム独立型 MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform messaging application

アプリケーション メッセージング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform messaging application** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform messaging application** {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}

**no debug platform messaging application** {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}

## シンタックスの説明

<b>all</b>	アプリケーションメッセージング デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>badpak</b>	不良パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>cleanup</b>	クリーンアップ デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>memerr</b>	メモリ エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>messages</b>	アプリケーションメッセージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>stackchg</b>	スタック変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>usererr</b>	ユーザ エラー デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**stackchg** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform messaging application** コマンドは、**no debug platform messaging application** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

■ debug platform messaging application

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform phy

PHY ドライバ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform phy** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | flcd {configure | ipc | iter |
  trace} | flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller | speed
  | write | xenpak}
```

```
no debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | flcd {configure | ipc | iter
  | trace} | flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller |
  speed | write | xenpak}
```

## シンタックスの説明

<b>automdix</b>	PHY 自動 Medium-Dependent Interface Crossover (MDIX) デバッグ メッセージを表示します。
<b>cablediag</b>	PHY ケーブル診断デバッグ メッセージを表示します。
<b>dual-purpose</b>	PHY 兼用イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>flcd {configure   ipc   iter   trace}</b>	PHY FLCD デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>configure</b> - PHY 設定デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ipc</b> - Interprocess Communication (IPC; プロセス間通信) デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>iter</b> - iter デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>trace</b> - 追跡デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>flowcontrol</b>	PHY フロー制御デバッグ メッセージを表示します。
<b>forced</b>	PHY 強制モード デバッグ メッセージを表示します。
<b>init-seq</b>	PHY 初期化シーケンス デバッグ メッセージを表示します。
<b>link-status</b>	PHY リンク ステータス デバッグ メッセージを表示します。
<b>read</b>	PHY 読み込みデバッグ メッセージを表示します。
<b>sfp</b>	PHY Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュール デバッグ メッセージを表示します。
<b>show-controller</b>	PHY show-controller デバッグ メッセージを表示します。
<b>speed</b>	PHY 速度変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	PHY 書き込みデバッグ メッセージを表示します。
<b>xenpak</b>	PHY XENPAK デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg platform phy** コマンドは、**no debug platform phy** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform pm

プラットフォーム依存型ポート マネージャ ソフトウェア モジュールのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform pm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events |
idb-events | if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span |
pm-vectors [detail] | rpc [general | oper-info | state | vectors | vp-events] |
soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}
```

```
no debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events |
idb-events | if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span |
pm-vectors [detail] | rpc [general | oper-info | state | vectors | vp-events] |
soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	ポート マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>counters</b>	Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージのカウンタを表示します。
<b>errdisable</b>	errdisable 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>etherchnl</b>	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>exceptions</b>	システム例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>hpm-events</b>	プラットフォーム ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>idb-events</b>	Interface Descriptor Block (IDB; インターフェイス記述子ブロック) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>if-numbers</b>	インターフェイス番号変換イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>ios-events</b>	Cisco IOS イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>link-status</b>	インターフェイス リンク検出イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	ポート マネージャ機能イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>pm-events</b>	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>pm-span</b>	ポート マネージャ Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>pm-vectors [detail]</b>	ポート マネージャ ベクトル関連イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>detail</b> - ベクトル機能の詳細を表示します。</li> </ul>
<b>rpc [general   oper-info   state   vectors   vp-events]</b>	RPC 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>general</b> - (任意) RPC 一般的イベントを表示します。</li> <li><b>oper-info</b> - (任意) 動作および情報関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li><b>state</b> - (任意) 管理および動作関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li><b>vectors</b> - (任意) ベクトル関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li><b>vp-events</b> - (任意) 仮想ポート関連イベント RP メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>soutput-vectors</b>	IDB 出力ベクトル イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>stack-manager</b>	スタック マネージャ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

## ■ debug platform pm

<b>sync</b>	動作同期および VLAN (仮想 LAN) ライン ステート イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlans</b>	VLAN 作成および削除 イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**stack-manager** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring には表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform pm** コマンドは、**no debug platform pm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform port-asic

ポート Application-Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け IC) ドライバのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-asic** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform port-asic** {**interrupt** | **periodic** | **read** | **stack** | **write**}

**no debug platform port-asic** {**interrupt** | **periodic** | **read** | **stack** | **write**}

## シンタックスの説明

<b>interrupt</b>	ポート ASIC 中断関連機能デバッグ メッセージを表示します。
<b>periodic</b>	ポート ASIC 定期的関数呼び出しデバッグ メッセージを表示します。
<b>read</b>	ポート ASIC 読み込みデバッグ メッセージを表示します。
<b>stack</b>	スタック関連機能デバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	ポート ASIC 書き込みデバッグ メッセージを表示します。



(注)

**stack** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform port-asic** コマンドは、**no debug platform port-asic** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform port-security

プラットフォーム依存型ポートセキュリティ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}**

**no debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}**

## シンタックスの説明

<b>add</b>	セキュア アドレス追加デバッグ メッセージを表示します。
<b>aging</b>	セキュア アドレス エージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	ポートセキュリティ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>delete</b>	セキュア アドレス削除デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	ポートセキュリティ エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>warnings</b>	警告デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug platform port-security** コマンドは、**no debug platform port-security** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform qos-acl-tcam

Quality of Service (QoS; サービス品質) および Access Control List (ACL; アクセス制御リスト) Ternary CAM (TCAM) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform qos-acl-tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}**

**no debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}**

シンタックスの説明	all	QoS and ACL TCAM (QATM) マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
	<b>ctcam</b>	Cisco TCAM (CTCAM) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
	<b>errors</b>	QATM エラー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
	<b>labels</b>	QATM ラベル関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
	<b>mask</b>	QATM マスク関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
	<b>rpc</b>	QATM Remote Procedure Call (RPC) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
	<b>tcam</b>	QATM TCAM 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebg platform qos-acl-tcam** コマンドは、**no debug platform qos-acl-tcam** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform resource-manager

リソース マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform resource-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform resource-manager {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}**

**no debug platform resource-manager {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	リソース マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>dm</b>	宛先マップ デバッグ メッセージを表示します。
<b>erd</b>	等価コスト ルート記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>madmed</b>	MAC (メディア アクセス制御) アドレス記述子テーブル、およびマルチ拡張記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>sd</b>	ステーション記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>stats</b>	統計情報デバッグ メッセージを表示します。
<b>vld</b>	VLAN (仮想 LAN) リスト記述子デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform resource-manager** コマンドは、**no debug platform resource-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform snmp

プラットフォーム依存型 SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform snmp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform snmp**

**no debug platform snmp**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug platform snmp** コマンドは、**no debug platform snmp** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform span

プラットフォーム依存型 Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform span** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform span**

**no debug platform span**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug platform span** コマンドは、**no debug platform span** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform stack-manager

スタック マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform stack-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}**

**no debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	すべてのスタック マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	スタック マネージャ Remote Procedure Call (RPC) 使用状況デバッグ メッセージを表示します。
<b>sdp</b>	Stack Discovery Protocol (SDP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>sim</b>	スタック情報モジュール デバッグ メッセージを表示します。
<b>ssm</b>	スタック ステートマシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>trace</b>	スタック マネージャの入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform stack-manager** コマンドは、**no debug platform stack-manager** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform supervisor-asic

スーパーバイザ Application-Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け IC) のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform supervisor-asic** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}**

**no debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	スーパーバイザ ASIC イベント デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	スーパーバイザ ASIC エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>receive</b>	スーパーバイザ ASIC 受信デバッグ メッセージを表示します。
<b>send</b>	スーパーバイザ ASIC 送信デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform supervisor-asic** コマンドは、**no debug platform supervisor-asic** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform sw-bridge

ソフトウェアブリッジング機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform sw-bridge** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}**

**no debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}**

## シンタックスの説明

<b>broadcast</b>	ブロードキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>control</b>	プロトコル パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>multicast</b>	マルチキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	送受信データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>unicast</b>	ユニキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform sw-bridge** コマンドは、**no debug platform sw-bridge** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform tcam

Ternary CAM (TCAM) アクセスおよびルックアップのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

debug platform tcam {log | read | search | write}

debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}

debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | qos}

debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}

debug platform tcam search

debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}

no debug platform tcam {log | read | search | write}

no debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}

no debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | qos}

no debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}

no debug platform tcam search

no debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}

```

## シンタックスの説明

<b>log l2 {acl {input   output}   local   qos}</b>	<p>レイヤ 2 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>acl {input   output}</b> - 入力または出力 ACL ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>local</b> - ローカル転送ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>qos</b> - 分類および QoS ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>l3 {acl {input   output}   qos}</b>	<p>レイヤ 3 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>acl {input   output}</b> - 入力または出力 ACL ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>qos</b> - 分類および QoS ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>



<b>read {reg   ssram   tcam}</b>	TCAM 読み込みデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>reg</b> - TCAM レジスタ読み込みデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ssram</b> - Synchronous Static RAM (SSRAM) 読み込みデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>tcam</b> - TCAM 読み込みデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>search</b>	スーパーバイザ起動型 TCAM 検索結果デバッグ メッセージを表示します。
<b>write {forw-ram   reg   tcam}</b>	TCAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <p><b>forw-ram</b> - 転送 RAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p><b>reg</b> - TCAM レジスタ書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p><b>tcam</b> - TCAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p>



(注)

**l3 ipv6 {acl {input | output} | local | qos | secondary}**、**l3 local**、および**l3 secondary** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebug platform tcam** コマンドは、**no debug platform tcam** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform udd

プラットフォーム依存型 UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform udd** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform udd [all | error | rpc {events | messages}]**

**no debug platform udd [all | error | rpc {events | messages}]**

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) UDLD デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>error</b>	(任意) エラー条件デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc {events   messages}</b>	(任意) UDLD Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>events</b> - UDLD RPC イベントを表示します。</li> <li>• <b>messages</b> - UDLD RPC メッセージを表示します。</li> </ul>

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform udd** コマンドは、**no debug platform udd** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform vlan

VLAN（仮想 LAN）マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

```
no debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

## シンタックスの説明

<b>errors</b>	VLAN エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>mvid</b>	マッピングされた VLAN ID 割り当ておよびフリー デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform vlan** コマンドは、**no debug platform vlan** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug pm

Port Manager (PM; ポート マネージャ) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pm** 特権 EXEC コマンドを使用します。PM は、すべての論理および物理インターフェイスを制御するステート マシンです。VLAN (仮想 LAN) や UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク 検出) などを含むすべての機能は、PM と連携して、スイッチに機能を提供します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy | registry
          | sm | span | split | vlan | vp}
```

```
no debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy |
             registry | sm | span | split | vlan | vp}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	PM デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>assert</b>	アサート デバッグ メッセージを表示します。
<b>card</b>	ラインカード関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>etherchnl</b>	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>hatable</b>	ホスト アクセス テーブル イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>messages</b>	PM デバッグ メッセージを表示します。
<b>port</b>	ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	冗長デバッグ メッセージを表示します。
<b>registry</b>	PM レジストリ呼び出しデバッグ メッセージを表示します。
<b>sm</b>	ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>span</b>	スパンニングツリー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>split</b>	スプリット プロセッサ デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan</b>	VLAN 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vp</b>	仮想ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**scp** および **pvlan** キーワードはコマンドラインのヘルプ ストリングに表示されていますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebug pm** コマンドは、**no debug pm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug port-security

ポート セキュリティ サブシステムの割り当ておよびステータスのデバッグをイネーブルにするには、**debug port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug port-security**

**no debug port-security**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **undebug port-security** コマンドは、**no debug port-security** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show port-security</b>	インターフェイスまたはスイッチに定義されたポート セキュリティ設定を表示します。

# debug qos-manager

Quality of Service (QoS; サービス品質) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug qos-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug qos-manager {all | event | verbose}
```

```
no debug qos-manager {all | event | verbose}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	QoS マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>event</b>	QoS マネージャ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>verbose</b>	QoS マネージャ詳細デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug qos-manager** コマンドは、**no debug qos-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug spanning-tree

スパニングツリーのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | csuf/csrt |
etherchannel | events | exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch |
synchronization | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | csuf/csrt |
etherchannel | events | exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch |
synchronization | uplinkfast}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	スパニングツリーのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>backbonefast</b>	BackboneFast イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>bpdu</b>	スパニングツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) デバッグ メッセージを表示します。
<b>bpdu-opt</b>	最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>config</b>	スパニングツリー設定変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>csuf/csrt</b>	クロススタック UplinkFast およびクロススタック高速遷移アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>etherchannel</b>	EtherChannel サポート デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	スパニングツリー トポロジー イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>exceptions</b>	スパニングツリー例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>general</b>	一般的なスパニングツリー アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>mstp</b>	Multiple Spanning-Tree Protocol (MSTP) イベントをデバッグします。
<b>pvst+</b>	Per-VLAN Spanning-Tree Plus (PVST+) イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>root</b>	スパニングツリー ルート イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	スパニングツリー SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) 処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>synchronization</b>	スパニングツリー同期イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>switch</b>	スイッチ シム コマンド デバッグ メッセージを表示します。このシムは、一般的な Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) コードと、各スイッチ プラットフォーム固有コードとの間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。
<b>uplinkfast</b>	UplinkFast イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC



コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	<p><b>undebg spanning-tree</b> コマンドは、<b>no debug spanning-tree</b> コマンドと同じです。</p> <p>デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、<b>session switch-number</b> 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで <b>debug</b> コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で <b>remote command stack-member-number LINE</b> 特権 EXEC コマンドを使用します。</p>
------------	---

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
	<b>show spanning-tree</b>	スパニングツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree backbonefast

スパニングツリー BackboneFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree backbonefast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree backbonefast** [detail | exceptions]

**no debug spanning-tree backbonefast** [detail | exceptions]

## シンタックスの説明

<b>detail</b>	(任意) BackboneFast デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>exceptions</b>	(任意) スパニングツリー BackboneFast 例外のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug spanning-tree backbonefast** コマンドは、**no debug spanning-tree backbonefast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニングツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree bpdu

送受信されたスパニングツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]**

**no debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]**

## シンタックスの説明

<b>receive</b>	(任意) 受信された BPDU デバッグ メッセージについて、最適化されないパスを表示します。
<b>transmit</b>	(任意) 送信され BPDU デバッグ メッセージについて、最適化されないパスを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug spanning-tree bpdu** コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニングツリー ステータス情報を表示します。

# debug spanning-tree bpdu-opt

最適化されたスパニングツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) 処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu-opt** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree bpdu-opt** [detail | packet]

**no debug spanning-tree bpdu-opt** [detail | packet]

## シンタックスの説明

<b>detail</b>	(任意) 最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>packet</b>	(任意) パケットレベルの最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg spanning-tree bpdu-opt** コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu-opt** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニングツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree mstp

Multiple Spanning-Tree Protocol (MSTP) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree mstp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init |
migration | pm | proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

```
no debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init |
migration | pm | proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	デバッグ メッセージをすべてイネーブルにします。
<b>boundary</b>	次に示す境界上でのフラグ変更をデバッグします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Multiple Spanning-Tree (MST) リージョンと、Rapid Spanning-Tree Protocol (RSTP) が稼動する単一のスパニングツリー リージョンとの境界</li> <li>MST リージョンと、802.1D が稼動する単一のスパニングツリー リージョンとの境界</li> <li>MST リージョンと、設定が異なる別の MST リージョンとの境界</li> </ul>
<b>bpdu-rx</b>	受信した MST Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) をデバッグします。
<b>bpdu-tx</b>	送信された MST BPDU をデバッグします。
<b>errors</b>	MSTP エラーをデバッグします。
<b>flush</b>	ポートフラッシュメカニズムをデバッグします。
<b>init</b>	MSTP データ構造の初期化をデバッグします。
<b>migration</b>	プロトコル移行ステートマシンをデバッグします。
<b>pm</b>	MSTP ポートマネージャイベントをデバッグします。
<b>proposals</b>	指定スイッチとルートスイッチ間のハンドシェイクメッセージをデバッグします。
<b>region</b>	Switch Processor (SP; スイッチプロセッサ) と Route Processor (RP; ルートプロセッサ) 間のリージョン同期をデバッグします。
<b>roles</b>	MSTP のロールをデバッグします。
<b>sanity_check</b>	受信した BPDU の正常性確認メッセージをデバッグします。
<b>sync</b>	ポート同期イベントをデバッグします。
<b>tc</b>	トポロジー変更通知イベントをデバッグします。
<b>timers</b>	開始、停止、および期限切れイベントの MSTP タイマーをデバッグします。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg spanning-tree mstp** コマンドは、**no debug spanning-tree mstp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニングツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree switch

Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のソフトウェア インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree switch** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

## シンタックスの説明

<b>all</b>	スパニングツリー スイッチのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	スパニングツリー ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>flush</b>	シム フラッシュ動作に関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>general</b>	一般的なイベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>helper</b>	スパニングツリー ヘルパー タスク デバッグ メッセージを表示します。ヘルパー タスクは大容量スパニングツリー更新を処理します。
<b>pm</b>	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>rx</b>	受信した Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコル データ ユニット) 処理のデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>decode</b> - デコードされた受信パケットを表示します。</li> <li>• <b>errors</b> - 受信エラー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>interrupt</b> - Interrupt Service Request (ISR) デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>process</b> - プロセス受信 BPDU デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>state</b>	スパニングツリー ポート ステート変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>tx [decode]</b>	送信された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>decode</b> - (任意) デコードされた送信パケットを表示します。</li> </ul>
<b>uplinkfast</b>	UplinkFast パケット送信デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg spanning-tree switch** コマンドは、**no debug spanning-tree switch** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニングツリー ステート情報を表示します。



# debug spanning-tree uplinkfast

スパニングツリー UplinkFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree uplinkfast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]**

**no debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]**

## シンタックスの説明

**exceptions** (任意) スパニングツリー UplinkFast 例外のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug spanning-tree uplinkfast** コマンドは、**no debug spanning-tree uplinkfast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニングツリー ステート情報を表示します。

# debug sw-vlan

VLAN (仮想 LAN) マネージャのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management |
mapping | notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

```
no debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management |
mapping | notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

## シンタックスの説明

<b>badpmcookies</b>	不良ポート マネージャ クッキーの VLAN マネージャ インシデントに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cfg-vlan {bootup   cli}</b>	config-vlan デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>bootup</b> - スイッチを起動したときのメッセージを表示します。</li> <li><b>cli</b> - CLI (コマンドライン インターフェイス) が config-vlan モードである場合のメッセージを表示します。</li> </ul>
<b>events</b>	VLAN マネージャ イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>ifs</b>	<a href="#">debug sw-vlan ifs</a> コマンドを参照してください。
<b>management</b>	内部 VLAN の VLAN マネージャ管理のデバッグ メッセージを表示します。
<b>mapping</b>	VLAN マッピングのデバッグ メッセージを表示します。
<b>notification</b>	<a href="#">debug sw-vlan notification</a> コマンドを参照してください。
<b>packets</b>	パケット処理およびカプセル化プロセスのデバッグ メッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	VTP VLAN 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	VLAN マネージャ レジストリのデバッグ メッセージを表示します。
<b>vtp</b>	<a href="#">debug sw-vlan vtp</a> コマンドを参照してください。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan** コマンドは、**no debug sw-vlan** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<code>show vlan</code>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。
<code>show vtp</code>	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

# debug sw-vlan ifs

VLAN（仮想 LAN）マネージャ IOS File System（IFS）エラー テストのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan ifs** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

```
no debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

## シンタックスの説明

<b>open {read   write}</b>	VLAN マネージャ IFS ファイル オープン動作のデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>read</b> - VLAN マネージャ IFS ファイル読み込み動作のデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>write</b> - VLAN マネージャ IFS ファイル書き込み動作のデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>read {1   2   3   4}</b>	指定されたエラー リスト（1、2、3、または 4）に関するファイル読み込み動作のデバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	ファイル書き込み動作のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan ifs** コマンドは、**no debug sw-vlan ifs** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

ファイルの読み込み処理に処理 **1** を選択すると、ヘッダー検証ワードおよびファイル バージョン番号が格納されたファイル ヘッダーが読み込まれます。処理 **2** を選択すると、ドメインおよび VLAN 情報の大部分が格納されたファイル本体が読み込まれます。処理 **3** を選択すると、Type Length Version (TLV) 記述子構造が読み込まれます。処理 **4** を選択すると、TLV データが読み込まれます。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vlan</b>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。

# debug sw-vlan notification

ISL（スイッチ間リンク）VLAN（仮想 LAN）ID のアクティブ化および非アクティブ化のデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan notification** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfcgchange | fwdchange |
linkchange | modechange | pruningfcgchange | statechange}
```

```
no debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfcgchange | fwdchange |
linkchange | modechange | pruningfcgchange | statechange}
```

## シンタックスの説明

<b>accfwdchange</b>	集約アクセス インターフェイス スパニングツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>allowedvlanfcgchange</b>	許可 VLAN の設定変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>fwdchange</b>	スパニングツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>linkchange</b>	インターフェイス リンクステート変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>modechange</b>	インターフェイス モード変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>pruningfcgchange</b>	ブリーニングの設定変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>statechange</b>	インターフェイス ステート変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan notification** コマンドは、**no debug sw-vlan notification** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<code>show vlan</code>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。

# debug sw-vlan vtp

VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) コードのデバッグをイネーブルにするには、`debug sw-vlan vtp` 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning [packets | xmit] | redundancy | xmit}
```

```
no debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning | redundancy | xmit}
```

## シンタックスの説明

<b>events</b>	汎用の論理フローのデバッグ メッセージ、および VTP コード内の VTP_LOG_RUNTIME マクロによって生成された詳細な VTP メッセージを表示します。
<b>packets</b>	IOS VTP プラットフォーム依存層から VTP コードに渡されたすべての着信 VTP パケット (プルーニング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。
<b>pruning [packets   xmit]</b>	VTP コードのプルーニング セグメントによって生成されるデバッグ メッセージを表示にします。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>packets</b> - (任意) IOS VTP プラットフォーム依存層から VTP コードに渡されたすべての着信 VTP プルーニング パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>xmit</b> - (任意) VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信 VTP パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>redundancy</b>	VTP 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
<b>xmit</b>	VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信 VTP パケット (プルーニング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

`undebug sw-vlan vtp` コマンドは、`no debug sw-vlan vtp` コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` 特権 EXEC コマンドを使用します。



**pruning** キーワードのあとにパラメータを指定しない場合は、VTP プルーニング デバッグ メッセージが表示されます。これらのメッセージは、VTP プルーニング コード内の VTP\_PRUNING\_LOG\_NOTICE、VTP\_PRUNING\_LOG\_INFO、VTP\_PRUNING\_LOG\_DEBUG、VTP\_PRUNING\_LOG\_ALERT、および VTP\_PRUNING\_LOG\_WARNING マクロによって生成されます。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vtp</b>	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

# debug udld

UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug udld** 特権 EXEC コマンドを使用します。UDLD デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug udld {events | packets | registries}
```

```
no debug udld {events | packets | registries}
```

## シンタックスの説明

<b>events</b>	UDLD プロセス イベントが発生したときに、このイベントに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	UDLD プロセスがパケット キューからパケットを受信し、UDLD プロトコル コードの要求に応答してそれらを送信するときに、このプロセスに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	UDLD プロセスが UDLD プロセス依存モジュールおよびその他のフィーチャ モジュールからのレジストリ コールを処理するときに、このプロセスに関するデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug udld** コマンドは、**no debug udld** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**debug udld events** を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 一般的な UDLD プログラム論理フロー
- ステート マシンのステート変更
- errdisable ステート設定および消去のプログラム アクション
- 近接キャッシュの追加および削除
- コンフィギュレーション コマンドの処理
- リンクアップおよびリンクダウン識別処理

**debug udd packets** を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 着信パケット受信時の一般的なパケット処理プログラム フロー
- 受信したパケットをパケット受信コードで調べるときの、各パケットの内容の識別情報 (Type Length Version [TLV] など)
- パケット送信の試行内容およびその成果

**debug udd registries** を入力すると、次に示すカテゴリのデバッグ メッセージが表示されます。

- サブブロックの作成
- ファイバポート ステータスの変更
- ポート マネージャ ソフトウェアからのステート変更識別情報
- MAC (メディア アクセス制御) アドレス レジストリ コール

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show udd</b>	すべてのポートまたは指定されたポートの UDD 管理ステータスおよび動作ステータスを表示します。

# debug vqpc

VLAN Query Protocol (VQP) クライアントのデバッグをイネーブルにするには、**debug vqpc** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug vqpc** [**all** | **cli** | **events** | **learn** | **packet**]

**no debug vqpc** [**all** | **cli** | **events** | **learn** | **packet**]

## シンタックスの説明

<b>all</b>	(任意) VQP クライアント デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>cli</b>	(任意) VQP クライアント CLI (コマンドライン インターフェイス) デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	(任意) VQP クライアント イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>learn</b>	(任意) VQP クライアント アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) VQP クライアント パケット情報デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(46)EX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug vqpc** コマンドは、**no debug vqpc** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでだけデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。